兵庫県のオオキノコムシ (2)
(兵庫県甲虫相資料・131)

髙　橋　寿　郎

13. Triplax amoena Solsky, 1871　アオバチビオオキノコムシ

東シベリア原産である(Horae Soc. Ent. Rossicae, 8:269−278, 1871)。中條博士はTritoma属の種として日本動物分類(1936)の時には図説されなかったがその当時の本種の分布は樺太(小沼)しか知られていなかった。神谷氏は盛岡に近い高洞山麓から採集これを美しい原色で図説された(日本の甲虫, 3巻, 1号, pl.1, fig.5, P.2−3, 1939)。さらに中條博士は青森県青荷温泉附近産で詳しい図説をされた。(I.C., 3巻, 2号, P.85−86, 1940)。共にTritoma属となっている。その後中根博士は本州では北部より山陰にかけて分布するとして図説された(1958, 1963)。属名はTriplaxである。中條博士のFauna Japonica(1969)の扱もTriplax属である。大変珍しい種と考えられる。

産地:美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

14. Triplax devia Lewis, 1887　フタホシチビオオキノコムシ

Lewis氏により"Hitoyoshi, Nikko, Miyanoshita"産で記載された種(1887)。幼虫は野淵博士の報文がある(1955)。

北海道より九州まで普通に産する種でアラゲカワキタケに集る。近似種とは赤い頭と前胸背の黒紋の形状で簡単に区別することが出来る。県下にも割合多い。

産地:川西市笹部〔仲田, 1970, 1978〕。神戸市山の街(11exs., 10−Ⅴ−1959, 2exs., 7−Ⅵ−1959), 烏原(8exs., 5−Ⅵ−1976)。宍粟郡音水(1ex., 20−Ⅶ−1959), 赤西(2exs., 23−Ⅵ−1979)。城崎郡三川山〔髙橋, 1978〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

15. Triplax discicollis Lewis, 1887　セモンチビオオキノコムシ

Lewis氏により"Miyanoshita"と"Kashiwagi"産で記載された(1887)。中條博士はTritoma属で記載, 同時に食茸としてツキヨダケ, ブナヘリタケ, ヒラタケを挙げられている(1936)。本州, 四国, 九州に分布しているが山地性のようである。県下でも北部地域にのみ記録がある。

産地:養父郡氷の山〔2exs., 4−Ⅶ−1965, Tsuji leg.〕。美方郡扇の山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

きべりはむし　vol.11, No.2:33-40.

16. Triplax japonica Crotch, 1873 ホソチビオオキノコムシ

本種はG. Lewis氏採集による"Nagasaki and Hiogo"産で記載された種である(1873)。中條博士はTritoma属で記載(1936), 後再びTriplax属に取扱っておられる(1969), 幼虫は野淵博士のものがある(1955)。

ヒラタケに多く集る。北海道から九州に広く分布し, やゝ普通な種と言われている。兵庫県下でも割合いそうである。特に寒い時季に多く見られる。

産地:Hiogo〔Crotch, 1873〕。神戸市六甲山〔中條, 1940〕, 烏原(10exs., 20-XI-1980, 4exs., 21-XI-1980), 藍那(1ex., 10-VI-1978, 7exs., 24-X-1978), 下谷上(4exs., 7-XI-1979, 1ex., 9-XI-1979)。豊岡市大岡山〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1974〕。

17. Triplax sibirica connectens (Lewis, 1891) シベリヤチビオオキノコムシ

Lewis氏によって奈良の一軒茶屋産でCyrtotriplax connectensとして記載された1887), Reitter氏はR. Hiller氏の日本に於ける採集品でT. gracilenta Solskyを記録(Deut. Ent. Zeit. XXIII, Heft. 2, 1879), 後Lewis氏も野渡にて柳に寄生していた茸から6exs. 採集(22-VI-1880)したと記録している(1887)。中條博士もTritoma gracilentaとして独立種にこの種を取扱っておられる。一方このconnectensをTritoma属で記録された(1936)。中根博士はTriplax connectens及びT. sibiricaを夫々独立種として取扱れた(1958)。

Delkeskamp氏はこのconnectens Lew. 1887, gracilenta Lew. 1887, gracilenta Heyden, 1887 (Amurland)のいづれもがTriplax sibirica Crotch, 1876 (Lake Baikal)のシノニムであることを発表されconnectensをsibiricaの亜種とされた(Ent. Rev. Japan, 10巻, 2号, P. 39-41, 1959)。

その後中條博士もTriplax sibirica connectensの取扱をしておられる(1969)。

分布は広くシベリア, 満州, 北支, 朝鮮, 日本では北海道から屋久島まで普通に見られると言うことであるが, 兵庫県下からほとんど知られていない。ヒラタケの類に来ている。

産地:神戸市藍那(10exs., 24-X-1978)。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1929, 高橋, 1975〕。

18. Pseudamblyopus similis (Lewis, 1887) ヒメスネビロオオキノコムシ

Lewis氏が"Nikko & Kashiwagi"の産でCytoriplax属で記載された種(1887)。中條博士はTritoma属で図説された(1936)。荒木東次氏は1942年に本種はPseudambl-

yo pus属に扱うべきだとの報文を発表された（Ent. World, 10巻, 98号, P.225−226, 2figs., 1942）。現在勿論この属の種とされている。中根博士（1958, 1963），中條博士（1969）の図説がある。分布は北海道，本州，四国である。

兵庫県下では次の記録を知るのみである。

産地：美方郡扇ノ山〔辻，多田，1972〕。

19. Neotriplax atrata Lewis, 1887　クロハバビロオオキノコムシ

Lewis氏が"Japan : in all islands"として記載された（1887）。中條博士（1936, 1969），中根博士（1958, 1963）の夫々図説がある。分布は日本全土（北海道，本州，四国，九州）。

主として山地のカワラタケ，カイガラタケ類にみられる種である。

県下でも中央から北の方に分布している。

産地：宍粟郡音水（1ex., 11−Ⅵ−1972），坂の谷（1ex., 22−Ⅶ−1979）。美方郡扇ノ山〔辻，1963., 辻，岸田，1972〕。

20. Neotriplax delkeskampi Nakane, 1961　コクロハバビロオオキノコムシ

中根博士が奈良−春日山，東京−奥多摩，三重−湯ノ山，長野−島々谷の産でもって記載された種（Fragm. Col. Pars. 1, P.4, 1961）。前記N. atrataに似ている種である。図説は中根博士（1963），中條博士（1969）がされている。現在の所本州にのみ産する種である。

兵庫県下の記録は無かった。赤西で採集したものがこの種に該当すると考えられる。

産地：宍粟郡赤西（1ex., 9−Ⅸ−1978）。

21. Neotriplax lewisi（Crotch, 1873）　アカハバビロオオキノコムシ

G. Lewis氏が採集した長崎，一本木産でCrotch氏によってCytotriplax属でもって記載された種である（1873）。Lewis氏はその後Neotriplax属として取扱われた（1887）。

日本では普通に産するオオキノコムシでよく知られている。カワラタケ，カイガラタケなど多孔菌に集まり成虫越冬で神戸あたりでは冬季1〜3月頃でも見ることが出来る。図説も多くある。蛹に就いては高千穂，安松氏の報文（1938），幼虫は野淵博士（1954）が図説しておられる。

産地：川西市笹部（4exs., 9−Ⅳ−1978）〔仲田，1978〕。神戸市六甲山（1ex., 18−Ⅴ−1967），烏原（8exs., 2−Ⅰ−1972, 1ex., 1−Ⅺ−1975, 6exs., 16−Ⅺ−1975, 1ex., 19−Ⅲ−1980, 2exs., 25−Ⅲ−1980），山の街（4exs., 22−Ⅴ−1949, 1ex., 20−Ⅲ−1977, 7exs., 15−Ⅹ−1977），下谷上（11exs., 16−Ⅺ−1979），藍那（3exs., 22−Ⅴ−

1978)。明石市明石公園(1ex., 9−Ⅶ−1978)。多可郡三谷(1ex., 24−Ⅴ−1975)。宍粟郡赤西(1ex., 23−Ⅵ−1979)。氷上郡〔山本, 1958〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

22. Rhodotritoma sufflava (Lewis, 1887) キイロチビオオキノコムシ

Lewis氏によってTriplax属で"Nikko, Chiuzenji & Shingu in Yamato"産で記載された(1887)。中條博士はTritoma属で図説された(1936)。荒木東次氏は本種がRhodotritoma属の種であるとされた(1942)。

1975年にI. Khnzorian氏はTritoma fulva (Reitter, 1879)=Rhodotritoma sufflava (Lewis, 1887)と両者のタイプを調べられて同一種だとされTritoma属のものであるとされた。

中根博士はこの考え方を紹介されると共に(1976), どうもTritoma属のものでないようでfulvaが真にsufflavaと同じかどうかは疑わしいと述べておられる。一応此処ではRhodotritoma属の種として扱っておく(中條博士も同様に取扱っておられる, 1969)。ヒラタケ, ハナガサタケが食茸として知られている(中條, 1969)。県下では大変少ない種のようで神戸市内で採集しただけである。

産地:神戸市藍那(1ex., 9−Ⅶ−1979)。

23. Tritoma pallidicincta (Lewis, 1887) キベリハバビロオオキノコムシ

本種はLewis氏が"Japan:Fukushima (1881年6月)"産でもってNeotriplax属で記載された(1887)。

割合記録の少なかった種であるが久松定成氏はその分布と食性について述べられ出現期が5月より6月初旬で発生期が短いため案外人に知られていないのではないかと記しておられる(新昆虫, 3巻, 4号, P.144−145, 1950)。中根博士(1958, 1963), 中條博士(1969)の夫々図説がある。

中條博士はTritomaはオオキノコムシではなかったとしてCyrtotriplax属を使用された。即ちTritoma Fabricius, 1755=Cyrtotriplax Crotch, 1873との扱をされた(1969)。この両属のタイプ種は同じイギリス産Tritoma bipustulata Fabriciusである。

併しTritomaはReitter氏の述べた(1887)コキノコムシでも用いられずにオオキノコムシとして用いられている。I−Khnzorin氏もTritoma属を用いておりNeotriplax Lewis, 1887属もこの属にふくめているとのことである(中根, 1976)。

本報文では従来通りのTritoma属として取扱った。

本種の食茸としてはカイガラタケ，チャミダレアミタケ，チャカイガラタケ，ハチノスタケが挙げられている（中條，1969）。

県下での記録が全くなかった。筆者は7月初めハチノスタケにきているのを神戸市内で採集することが出来た。

産地：神戸市藍那（4exs., 9－Ⅶ－1979）。

24. Tritoma discalis (Lewis, 1887)　ヒシモンチビオオキノコムシ

Lewis氏により"Nikko & Kashiwagi"産でCyrtoriplax属で記載された（1887）。

本種の斑紋は割合はっきりしているので区別はそれ程難しくない。たゞ良く似た斑紋の種が何種類かいてそれらの関連において再検討を要すると中根博士は述べておられる（1958）。

図説は中條博士（Tritoma属，1936., Cyrtotriplax属，1969），中根博士（Tritoma属，1958, 1963）のものがある。

食茸としてカイガラタケ，カワラタケ，ウチワタケ，コルクタケが示されている（中條，1969）。

県下では少ない種のようで氷の山で採集した。

産地：養父郡氷の山（1ex., 2－Ⅶ－1953）。

25. Tritoma pallidiventris (Lewis, 1887)　アカハラチビオオキノコムシ

Lewis氏によって"Chiuzenji"産でCytotriplax属で記載された（1887）。図説もされている（中條，1936, 1969, 中根，1958, 1963）。

本州，四国，九州の山地帯に産するが多くないと，アシグロタケ，ウチワタケ類を食すると，県下では扇の山でしか記録がない。

産地：美方郡扇ノ山〔辻，1963., 辻，岸田，1972〕。

26. Tritoma rufipennis Lewis, 1887　ベニバネチビオオキノコムシ

Lewis氏によって"Rakuwayama, near Hitoyoshi (3－Ⅴ－1881)"産でCytotriplax属で記載された（1887）。

本種も図説がそれぞれある（中條，1936, 1969, 中根，1958, 1963）。食茸としてウチワタケとコフキサルノコシカケが挙げられている（中條，1969）。北海道，本州，四国，九州の山地帯にいる種だが余り多くないとのことである。兵庫県下でも次の産地が知られているだけである。

産地：相生市三濃山（1ex., 28－Ⅳ－1974）。

27. Tritoma maculifrons Lewis, 1887　ミツボシチビオオキノコムシ

Lewis氏によって"Oyama (25－Ⅴ－1880) & Higo (1881年春)"産でCyrtoriplax属で記載された種である。割合斑紋がはっきりしているがdiscalisに良く似た所もあり検討を要すると述べられている(1958)。中條博士(1936, 1969), 中根博士(1958, 1963)の図説がある。この種には紀伊半島に産するsubsp. pseudodiscalis Nakane (Fragm. Col., Pars. 1:5, 1961)がある(上翅紋の合一したものT. discalisに良く似た斑紋である)。

近畿地方には多い種とのことであるが分布は本州, 四国, 九州である。食茸としてカイガラタケ, カワラタケ, コフキサルノコシカケ, カワウソタケが挙げられている(中條, 1969)。

県下では従来余り産地が知られていなかったが神戸市内押部谷町で褐色の茸に割合来ていた。

産地:川辺郡猪名川町木間生[仲田, 1978]。神戸市摩耶山[柴内, 中畔, 1950], 押部谷町木見(4exs., 16－Ⅶ－1980, 3exs., 3－Ⅷ－1980, 4exs., 7－Ⅷ－1980, 2exs., 24－Ⅷ－1980)。

28. Tritoma nigropunctata (Lewis, 1887)　ツマグロチビオオキノコムシ

Lewis氏により"Miyanoshita"産でCyrtotriplax属で記載された(1887)。本種も斑紋が割合とはっきりとしている。中條, 中根両博士の図説がある(1936, 1958. 1963, 1969)。別に中條博士は谷口(黒佐)和義博士が箕面で採集された標本に基いて詳しい図説をしておられる(日本の甲虫, 3巻, 2号, P. 87－89, 1940)。

分布は本州と九州であるが中根博士は北海道で採集された旨記しておられる(1958, 多分新種か新亜種になるものかもとの註がついている)。全般に少ない種とされていて兵庫県下でも次の記録を知れるのみである。

産地:宍粟郡波賀町原[1ex., 27－Ⅵ－1971, H. Hatanaka leg.]。

29. Tritoma niponensis (Lewis, 1874)　クロチビオオキノコムシ

本種はLewis氏によって"Hiogo－near Maiyasan Temple"産でCyrtotriplax属で記載された(1874)。黒色で光沢があり北海道から九州まで広く産する普通種。東シベリアにも分布していると, 図説も多くある(中條, 1936, 1969, 中根, 1958, 中根, 1958, 1963)。幼虫, 蛹に就いての報告もある(新村, 1939, 野淵, 1955)。

食茸としてシイタケ, シュタケ, カイガラタケ, チャカイガラタケ, アラゲカワラタケ, カワラタケが知られている(中條, 1969)。

兵庫県下でも極めて多くいる種である。

産地：川辺郡猪名川町槻並（1ex., 4−Ⅴ−1979）。川西市大和，笹部［仲田，1978］，笹部（5exs., 9−Ⅳ−1978）。神戸市摩耶山［Lewis, 1874］，烏原（5exs., 11−Ⅵ−1967, 2exs., 29−Ⅳ−1969），箕谷（6exs., 5−Ⅳ−1975），藍那（1ex., 22−Ⅴ−1978, 1ex., 7−Ⅸ−1978）。多可郡三谷（5exs., 19−Ⅳ−1975），鳥羽（19exs., 29−Ⅳ−1972），白山（2exs., 3−Ⅴ−1973）。相生市三濃山（4exs., 28−Ⅳ−1974, 9exs., 16−Ⅵ−1974, 1ex., 18−Ⅴ−1974）。佐用郡大撫山（10exs., 2−Ⅴ−1978）。宍粟郡赤西（2exs., 27−Ⅴ−1979, 1ex., 3−Ⅵ−1979），音水（2exs., 20−Ⅶ−1959, 2exs., 10−Ⅴ−1970），坂の谷（1ex., 22−Ⅶ−1979）。氷上郡［山本，1958］。美方郡扇ノ山［辻，岸田，1963., 髙橋，1975］。

30. Tritoma sobrina (Lewis, 1887)　ベニモンチビオオキノコムシ

Lewis氏により"Japan"とのみで産地を明示されないまゝCyrtotriplax 属で記載された（1887）。比較的斑紋もはっきりして見分けやすい種である。図説も中條，中根両博士のものがある（1936, 1958, 1963, 1969）。

幼虫に就いては野淵博士がのべておられる（1955）。日本の本州，四国，九州に分布し，主に山地に多い種であると，食茸はカイガラタケ，チャミダレアミタケ，ミダレアミタケ，アラゲカワラタケ，カワラタケ，ミカワタケ，キクラゲ等多くが挙げられている（1969）。

兵庫県下でも多くいるが県の中央部近くから北にいるようで南側海岸線沿いの地域には記録が無い。

産地：多可郡三谷（6exs., 19−Ⅳ−1975），鳥羽（32exs., 29−Ⅳ−1972）。宍粟郡赤西（8exs., 27−Ⅴ−1979）。養父郡氷の山（6exs., 25−Ⅶ−1959）［髙橋，1975］。美方郡扇ノ山［辻，1963., 辻，岸田，1972］。

Subfamily Cryptophinae

31. Cryptophilus obliteratus Reitter, 1874　ヒラナガムクゲオオキノコムシ

Reitter氏によって日本を産地に記載された種である（Verh. zool.−bot. Gen. Wien, 24：382, 1874）（次種 propinquus と共に G. Lewis 氏が長崎で採集したものであるとのこと，中根，1958）。中根博士によって図説されている（1956, 1958, 1963）。古木の皮下などにみられ，燈火に飛来することがあると（中根，1958）。

県下の記録は次の所があるのみである。

産地：津名郡常隆寺山［1ex., Ⅺ−1972, 久松，1973］。

32. Cryptophilus propinquus Reitter, 1874　ヒメムクゲオオキノコムシ

Reitter氏によって"Japan"産で記載された(1874)。中根博士によって図説されている(1958, 1963)。

分布は本州，四国，九州，台湾となっているが，小さい種(体長3.2㎜)なので見つけにくいのかも知れない。神戸市内でピットホールトラップに入ったのが採集出来ている。

産地：神戸市須磨・妙法寺(1ex., 11-Ⅺ-1978, 1ex., 7-Ⅻ-1979, 1ex., 27-Ⅱ-1979)。

以上，兵庫県産オオキノコムシ科32種の記録をしたが始めに記したようにまだまだ不充分で，もっときめ細い調査をしなければいけないと思うし，そうすればもっと産する種も増加することだろうと考えている(本州産の半数以上は産するように思われるのだが—)。

(May, 1983)

追　記

1983年中根博士によって鹿児島産2新種が記載された(Frag. Coleop. Pars. 35/37：144-145, Fig. 18, 19)，そして従来Tritoma basalis Lewis, 1887 ネアカチビオオキノコムシは既に北米産T. basalis Lacordaire, 1842があるので新に学名にT. lewisianus Nakaneが命名された。之で日本産オオキノコムシ科は始めに紹介したものに2種が加わって98種になる。尤も本州産は77種のまゝである。

兵庫・神戸を原産地とする甲虫類について (1)
(兵庫県甲虫相資料・133)

高　橋　寿　郎

江戸末期に洋学の知識が入ってくるとともに日本を訪れる欧米人も多くなり各種の学問がこれら欧米人によって発展を始めた。

日本の昆虫学の発展もこれ等欧米人によってその基礎がきづかれたことは衆知のことである。

兵庫，即ち神戸も兵庫の港として古く開けたので欧米人の来訪者の多くが兵庫に立寄り，或いは滞在して昆虫の採集をしたりし，その関係で兵庫に関する昆虫の研究も日本の昆虫の研究とほゞ同じ位の時代から知られていることになる。したがって兵庫(Hiogo or Hyogo)を原産地とする昆虫は数多く記載されている。

きべりはむし　vol.11, No.2：40-48.